

[illegible]

■国営農地開発事業

■国営農地再編整備事業 農地:農地造成 区画:区画整理 用水:用水路 揚機:揚水機場

■国営干拓事業 潮堤:潮受堤防 内堤:内部堤防 用水:用水路 ※受益面積()は内数

■国営総合農地防災事業

■直轄海岸保全施設整備事業



九州農政局

国営土地改良事業等位置図

農業遺産・世界かんがい施設遺産位置図



世界農業遺産

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。これまでに、我が国を含め世界で26ヶ国86地域、日本では15地域が認定され、そのうち九州では、3地域が認定されています。（令和5年11月現在）

阿蘇の草原の維持と持続的農業

■ 阿蘇地域世界農業遺産推進協会（熊本県阿蘇市 他）

高森町、南阿蘇村、西原村)を認定。千年以上続く「野焼き」などの草原の維持管理方法により、草資源の確保や多様な動植物が生育・生息するなど、持続的な農業の営みによって雄大な自然景観が維持されている。

クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環

■ 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会(大分県豊後高田市 他)

市、国東市、姫島村、日出町)を認定。クヌギ林を利用した原木乾シイタケやシチトウイ生産をはじめとする農林水産業が営まれ、これらと連携するため池群とクヌギ林によって持続的に維持されている。

高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム】

■ 高千穂郷・椎葉山世界農業遺産推進協議会(宮崎県高千穂町 他)


 塚村、椎葉村)を認定。除くし平地が少ない山間地において、針葉樹と広葉樹で構成されるモザイク林等による森林保全管理、伝統的な焼畑農業、標高の高い傾斜地に築かれた500km超の山腹水路網を有する棚田の米作りなどの複合的農林業システムと神楽など特色ある伝統文化が継承されている。

日本農業遺産

日本農業遺産は、我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を、農林水産大臣が認定する制度です。これまでに、24地域が認定され、そのうち九州では、2地域が認定されています。（令和5年1月現在）

造船材を産出した駄肥林業と結びつく「日南かつお一本釣り漁業」

日本農業遺産「南かつお一本釣り漁業保全推進協議会（宮崎県日南市）」

令和3年2月、日南市（旧日南市、旧北郷町、旧南郷町）を認定。
漁獲効率がもつたお資源を守ることを選んだ。300年の歴史を
有する伝統漁業で、広大な紙肥材林工場の恵みを伝統漁や地域で活用
しながら継承されている。

日本農業遺産「南かつお一本釣り漁業保全推進協議会」

宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム

田野・清武地域日本農業遺産推進協議会(宮崎県宮崎市)

令和3年2月、田野・清武地域を認定。
耕畜連携によるつくりを行いながら、季節に柔軟に対応した農地
畑作の高度利用を実現。冬季の乾燥した冷たい西風を活用して大根を
干すために組まれる「大根やぐら」は特徴的な農村景観を形成してい
る。

◎田野・清武地域日本農業遺産推進協議会

世界かんがい施設遺産

世界かんがい施設遺産は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するため、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会(ICID)が認定・登録する制度です。これまでに、我が国を含め19カ国161施設、国内では51施設、そのうち九州では、6施設が登録されています。(令和5年11月現在)

VI 山田堰・堀川用水・水車群 (福岡県朝倉市)

平成26年、登録。
山田堰は日本三大築川の異名を持つ筑後川の水圧と激流に耐えるため日本唯一の「傾斜埋床式石堰堤」という精巧かつ堅牢な構造となっている。

人の力だけでは水量が不足するため、畑川用水の流水を利用して回転するあざくろ三連水車により揚水量を確保している。

VII 通潤用水（熊本県山都町）

平成26年、登録。

日本最大の石造アーチ水路橋「通潤橋(国の重要文化財)」をはじめ、通潤期水防止の分水工、上下二段構造の水路による水の反復利用など、日本固有の技術の集大成となっている。水路の水不足時に行われる「昼返り水」（昼夜間に上流と下流の受益者がそれぞれ取水する）などの公平な水配分の慣行に加え、環境や景観の面でも優れた整備。豪快な通潤橋の放水の様子は多くの観光客を魅了している。

Ⅷ 幸野溝・百太郎溝水路群(熊本県湯前町、多良木町、あさぎり町、錦町)

平成27年・豆蔵。陸稻やサツマイモ等しか採れない畑地帯だったが、水田開発を目的として、日本三大急流の1つである球磨川を堰き止めて造られた幸野溝が1705年に、百太郎溝が1710年に完成した。幸野溝の隧道は、石で組まれた金尊造りと呼ばれる建築様式で補強しており、この方式を採用したのは幸野溝が日本最古となっている。百太郎溝は、藩からの助成がない中で、子供から年寄りまで農民総出で建設した。

IX 白川流域かんがい用水群(熊本県熊本市、菊陽町、大津町)

約400年前、加藤清正や歴代細川家の手によって「上井手用水」、「下井手用水」、「馬場橋井手用水」、「渡鹿用水」が築造され、約1,800haの新田が生まれた。用水群の築造と新田開発により大規模な地下水の流れを伴う地域水循環が形成された。白川中流の地下水で涵養される地下水資源は、熊本地域の約100万人の生活を支えている。

X 菊池のかんがい用水群（熊本県菊池市）



令和元年、登録。
 古くは1615年の「築地井手」の建造に始まり、615haの水田にかんがいて用水を供給する菊池川の水源地とした施設群となっている。
 現在では、原井手を下る「井手ベンチャー」や宝永竈通の小学生向け見学会など施設を利用した地域活性化にも大きく貢献している。

XI 宇佐のかんがい用水群（大分県宇佐市）


 新館川を用水源とする平田井路と広瀬井路は、西側平野部と東側台地部にかんがび用水を供給し、併せて約240haの水田開発により、地域発展の発展及び食料増産に貢献している。こうした農業水利の歴史や独特な農耕文化、持続的な農業が世界的にも評価され、2013年に宇佐は国東半島とともに世界農業遺産にも選ばれている。